

平成21年第6回（11月）瀬戸内市議会定例会

教育委員会行政報告

市長の一般行政報告に続いて、教育委員会から3件の行政報告をいたします。

○ 新型インフルエンザの発生状況について

市内の幼稚園、小・中学校における新型インフルエンザの発生状況は、9月25日に市内の小・中学校で児童・生徒に感染が報告され、以来、10月上旬にかけて邑久地域の小学校で流行し始め、同地域の中学校や長船地域の小・中学校にも拡大し、牛窓地域も含め市内全域に広がりました。

教育委員会で把握している感染者数は、11月上旬の時点で延べ400人を超え、市内の幼稚園、小・中学校8校で延べ30クラスが学級閉鎖の措置をとりました。

学校においては、手洗い・うがいなどの基本的な予防措置を励行するとともに、外来者用消毒液の設置などの対策も行ってきましたが、感染者の増大により邑久地域の小学校修学旅行の延期や市内中学校音楽発表会の中止など、学校行事への支障も出ております。

今後、季節性のインフルエンザの流行も懸念されることから、より一層の健康管理や予防対策を徹底するとともに、新型インフルエンザワクチン接種

の早期開始を期待しているところです。

○ 全国学力・学習状況調査について

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果につきまして、9月の市議会総務文教常任委員会で報告させていただきましたことの概要をお知らせします。

本市の小学校6年生・中学校3年生の国語と算数・数学の平均正答率は、昨年度と比較して、小学校では全国の平均正答率をやや下回るものの、その差は大きく縮まりました。また、中学校では4領域中3領域において全国の平均正答率を上回る結果となっています。この結果、正答数の分布を見ますと、小学校では上位層がやや少なく、中位層から下位層が若干多くなっています。

一方中学校においては、上位層が増え、下位層は少なくなっています。全体的には、学力面においては小学校・中学校とも改善が見られます。なお、小学校の無回答率については依然として高い傾向にありますが、中学校においては減ってきています。

今回の調査で明らかになった本市の課題は、学習習慣の確かな定着や言語活動に関わる表現力の向上です。そのためには、習熟度別の指導の充実・指導方法を工夫したり、放課後や長期休業中の学習指導の機会を増やしたりすることにより、一人ひとりの学習の量を増やすだけでなく、学習の質も向上

させる必要があると考えます。また、本市の子どもたちの家庭学習の時間は昨年度よりも改善が見られますが、決して十分であるとは言えず、家庭学習のあり方が学習習慣の改善のポイントのひとつであると考えます。引き続き、家庭学習のあり方を工夫し、保護者の協力を得ながら、家庭での学習習慣の定着を図っていく必要があります。

既に、各学校では、学校ごとに「学力・学習状況改善プラン」を作成し、課題解決に向けた取組を実行しています。教育委員会としましても、本市を3つの中学校区に分け、学力向上のための研修会を中学校区ごとに開催したり、学力向上プロジェクトチームを設置したりするなど、中学校区ごとに学力向上への具体的な取り組みが行える体制づくりをスタートしました。今後、家庭や保護者の理解・協力が得られるよう学力向上に向けたいくつかの提案を示していきたいと考えています。

○ 図書館（室）の整備について

図書館（室）の整備では、老朽化しておりました牛窓図書館を新たに牛窓町公民館図書室として牛窓支所の2階に移転いたします。これにより市内から図書館がなくなることになるため、岡山県教育庁生涯学習課や岡山県立図書館などと協議を行い、指導・助言を受け、市民の図書資料の貸借など学習環境が後退することがないように配慮し、蔵書数や利用者登録数が一番多い中央公民館図書室を新たな図書館が整備されるまで瀬戸内市立図書館として活

用していきたいと考えております。これに伴う図書館条例を本議会に提出させていただきますのでよろしくお願いいたします。

以上をもって、教育委員会の行政報告とさせていただきます。

平成21年11月26日

瀬戸内市教育委員会

教育長職務代理者

教育次長 福池 敏和